

8 ペルシア戦争とペロポネソス戦争

対ペルシアの結束から ポリス間の対立へ

大国ペルシアを悩ました ギリシアのポリス連合軍

前500年、アケメネス朝ペルシア（P.20参照）の支配下にあったミレトスなど、イオニア地方の諸ポリスが同盟を結んで、反乱を起こした。それを支援していたアテナなどギリシア本土のポリスが、ペルシアの報復攻撃を受けることとなった。ペルシア戦争である。

前490年、エーゲ海から侵攻してきたペルシア軍を、アテナ軍はアテナ北東岸のマラトンで撃退した（マラトンの戦い）。前480年には、前回を上回る大軍で攻めてきたペルシア軍に、ギリシア側はスパルタとアテナを中心にしたポリス連合軍で立ち向かった。ギリシア中部テルモピレを守っていたスパルタ軍が敗れ、一時はアテナも占領されたが、アテナの知将テミстокレスの指揮のもと連合軍はサラミスの海戦でペルシア大艦隊を撃破し、さらに翌年プラタイアイの陸戦でも勝利、ペルシア軍を撤退させた。

ペロポネソス戦争をきっかけに 崩壊に向かうポリス社会

前478年ごろ、次のペルシアの来襲に備え、アテナを盟主にデロス同盟を結成し、最大時には約200のポリスが加わった。アテナは同盟市への支配を強め、スパ

ルタ率いるペロポネソス同盟との対立が深刻化、前431年、ペロポネソス戦争が起る。

ペロポネソス同盟軍のアテナへの侵攻で、市内に籠城していたアテナ市民の間に、悪疫が流行した。直接民主政を実現した指導者ペリクレスも病死。それでも同盟の支配をあきらめられないアテナは、扇動政治家が市民を操る衆愚政治に陥って戦争を続行した。しかし、前405年、ペルシアの援助を受けたペロポネソス同盟軍に敗れて制海権を失い、翌年デロス同盟の解体を条件に、アテナは降伏した。

以後、ポリス間の抗争が続いたが、前338年、北部から侵攻してきたフィリッポス2世率いる新興国マケドニアとのカイロネアの戦いに、アテナ・テーベの連合軍が敗れると、ギリシアのポリス世界は崩壊した。



前500年
前404年

大敵ペルシアを前に連合したアテナとスパルタだったが、やがて、ギリシア世界の覇権をめぐり、対立を深めていった。

崩壊に向かうポリス

